

平成 29 年度高岡市・フォートウェイン市医療交流に参加して

看護科 包括的がん医療センター
主任看護師 飯澤 泉

平成 29 年 10 月 21 日から 30 日まで、高岡市・フォートウェイン市の医療交流会に参加した。月曜日から金曜日の 5 日間にパークビュー病院で「病院の概要」「日本の医療・介護制度」「リハビリテーション」「放射線療法」「がん化学療法」について互いに、プレゼンテーションで情報交換をした。2 日目午後から、シャドーイングで各部門の現場見学やディスカッションを行った。また、フォートウェイン市長に表敬訪問し、歴史館にてフォートウェインの歴史を学んだ。フォートウェインは、電化製品製造産業が発達していた時代があり、自動洗濯機、セルフガソリン給油機など様々な電化製品発祥の地であることに驚いた。

パークビュー病院では、アメリカと日本の医療制度やシステムの違いはあるが、医療の質と量を向上するために多職種による連携、規則、システム、共通の目的を分かりやすいプログラムで遵守する教育の徹底さを感じた。各分野の専門的知識・技術の習得は、資格制度として明確であり、資格を習得した際のインセンティブによりモチベーションを向上させ、職位が上がる仕組みになっていた。

各部門では、医師を中心としたチーム医療が構築されていた。各部署の共通した目標として、1 つ目は「Service Excellence」、2 つ目は「Safety and Quality」、3 つ目は「Growth」、4 つ目は、「Financial and Human Resources」が掲げられていた。この 4 つの目標はホワイトボードに掲げられ、達成状況を表示しスタッフが常に意識していることが伺えた。チーム医療における安全や質の確保に必要なものを部署の責任者がリーダーシップをとり、情報収集とコミュニケーションが図られ、包括的なチームワークがなされていた。

私は、今回の交流会に参加して、様々な宗教と価値観を持ち、多様な民族で構成された組織の人々が的確に理解し実践できるシステムづくりに学びを得ることができた。パークビュー病院の場合は、大学卒以上の看護師が、がん看護認定を取得し 2 年以内に 6 か月の院内研修を受けるプログラムであった。私は、化学療法認定看護師として当院の看護師の教育にも関わってきた。スタッフが、安全に抗がん剤投与管理を実施するためには、がん化学療法看護の役割の明確化と一つ一つの知識・技術項目を上げ、それに伴うルールを身につけるため教育時間を増やし、患者と自身の安全を遵守する徹底した教育の必要性を感じた。

また、パークビュー病院では、患者さんが、がんを告知された時から安心して治療が受けられるシステムが構築されていた。一人の看護師が患者をナビゲートし、誰がみても情報共有できるように「がん患者教育ハンドブック」を作成し繰り返し説明していた。患者と各部門の医療者が同じ視点で病気に向かっていくことができ、ハンドブックには、医師・スタッフが行ったカンファレンス内容も記載され、患者自身が状況を理解し安心につながっていた。さらに、患者自身が医療者を評価しチームにフィードバックを行う仕組みは、医療者のモチベーション向上につながっていると感じた。

私はこの経験を活かし、化学療法看護教育の見直しと患者とスタッフが、病状説明書や検査データを共通理解のツールとしてコミュニケーション強化をし、がん患者の安心や不安の軽減につなげていくことを課題として見出すことができた。

今回、このような貴重な経験をさせていただいたことに深く感謝申し上げます。